

## 平成30年度事業計画書

協会は、道路の果たす多様な役割を通じて、安全で活力ある社会のために、今後の道路政策の展望や直面する広範囲な課題やさまざまな貴重な道路に関する研究成果を提供し、もって公共の福祉の増進に寄与する各種事業活動を展開する。このため、事業活動にあたっては、公益社団法人として公益性が求められる公益目的事業を主たる事業として実施しながら、事業の健全性・継続性を十分考慮しつつ、健全な協会運営を維持していくものとする。

平成30年度は、今後とも健全な運営を確保するため、昨年度に引き続き経営改善方策検討の基本方針に基づき事業毎の継続的な収支改善の見直しを行うとともに、中長期的な課題については、引き続き各委員会等で検討していくものとする。

### 1. 調査研究

産学官連携による道路に関する施策・技術等の提言及び実務に活用できる指針類の作成を基本とし、ニーズの把握による適時性と新分野への取組を積極的に行う。

委員会名	審議内容	改訂等の背景・内容	成案予定	発行予定
交通工学委員会	1)「道路構造令の解説と運用」に係る改訂素案検討および反映事項の整理 2)「道路標識設置基準・同解説」作成(改訂) 3)「道路標識構造便覧」作成(新刊) 4)「立体横断施設設置基準・同解説」改訂素案作成	1)道路構造令の解説と運用に係る改訂事項等の検討および、条例委任に伴う地方公共団体における道路構造基準等に関する取組フォローアップ 2)構造令の改正ニーズ等を踏まえ、改訂事項等を整理 3)道路標識構造便覧のとりまとめ 4)立体横断施設設置基準・同解説に係る改訂事項等の検討		30年度 30年度
橋梁委員会	1)「道路橋示方書(H24.3版)」条文英語版(Ⅰ共通編・Ⅴ耐震設計編)の公表 2)「道路橋示方書(H24.3版)」条文英語版(Ⅱ鋼橋編・Ⅲコンクリート橋編・Ⅳ下部構造編)の検討 3)「鋼道路橋設計便覧」「鋼道路橋施工便覧」「鋼道路橋防食便覧」「鋼道路橋耐風設計便覧」作成(改訂) 4)「疲労対策便覧」作成(新刊) 5)「コンクリート道路橋設計便覧」「コンクリート道路橋施工便覧」作成(改訂) 6)「杭基礎設計便覧」「杭基礎施工便覧」作成(改訂) 7)「道路橋耐震設計便覧」作成(新刊) 8)「補修補強設計便覧(耐震設計編)」作成(新刊) 9)「道路橋非破壊調査便覧」作成(新刊) 10)「補修補強設計便覧」作成(新刊) 11)「道路橋の高耐久化(仮)」検討(新刊) 12)「道路橋点検必携」作成(改訂)	1)道路橋示方書条文英語版(Ⅰ共通編・Ⅴ耐震設計編)公表へ向けたとりまとめ 2)道路橋示方書条文英語版(Ⅱ鋼橋編・Ⅲコンクリート橋編・Ⅳ下部構造編)原案作成 3)鋼道路橋設計便覧、鋼道路橋施工便覧、鋼道路橋防食便覧、道路橋耐分設計便覧のとりまとめ 4)疲労対策便覧のとりまとめ 5)コンクリート道路橋設計便覧、コンクリート道路橋施工便覧のとりまとめ 6)杭基礎設計便覧、杭基礎施工便覧のとりまとめ 7)道路橋耐震設計便覧のとりまとめ 8)補修補強設計便覧(耐震設計編)のとりまとめ 9)道路橋非破壊調査便覧のとりまとめ 10)補修補強設計便覧のとりまとめ 11)道路橋の高耐久化(仮)原案作成 12)道路橋点検必携の原案作成	31.1	31.3
			31.1	31.3
			31.1	31.3
			31.1	31.3
			30.8	30.10
			30.8	30.10
			30.4	30.6
			30.10	30.12

委員会名	審議内容	改訂等の背景・内容	成案予定	発行予定
舗装委員会	1)舗装の効率的な管理・環境負荷の軽減、舗装の性能評価、設計施工のあり方について検討 2)「舗装点検要領に基づく舗装マネジメントの手引き(仮)」作成(新刊) 3)「舗装の長期性能舗装の手引き(仮)」検討(新刊) 4)PRリーフレット(英語版)の公開 5)「舗装調査・試験法便覧」作成(改訂) 6)「英文アスファルト舗装要綱(仮)」作成(新刊) 7)舗装技術の海外展開支援業務	1)下記の図書に反映 2)舗装点検要領に基づく舗装マネジメントの手引き(仮)のとりまとめ 3)舗装の長期性能舗装の手引き(仮)の素案作成 4)環境面、生活基盤としての舗装機能PRリーフレット(英語版)のとりまとめ 5)舗装調査・試験法便覧のとりまとめ 6)英文アスファルト舗装要綱(仮)のとりまとめ 7)ミャンマー国における簡易舗装技術の支援	30.7	30.9
道路土工委員会	1)「道路土工—擁壁工指針」作成(改訂) 2)「排水工便覧」作成(新刊) 3)「道路土工—盛土工指針」作成(改訂)	1)道路土工—擁壁工指針のとりまとめ 2)排水工便覧のとりまとめ 3)道路土工—盛土工指針のとりまとめ	30.6 31.1 31.1	30.8 31.3 31.3
トンネル委員会	1)「道路トンネル非常用施設設置基準・同解説」検討(改訂) 2)「道路トンネル技術基準(構造編)・同解説」検討(改訂)	1)道路トンネル非常用施設設置基準・同解説の原案作成・成案 2)道路トンネル技術基準(構造編)・同解説の改訂方針について審議		
道路震災対策委員会	「道路震災対策便覧(震災危機管理編)」の発刊(改訂)	東日本大震災の教訓、首都直下型及び南海トラフ地震等の検討事項の知見の反映	31.1	31.3
道路維持修繕委員会	道路維持修繕要綱(仮称)の積み残し課題の整理	次期改訂事項等の整理		

(備考)このほか、基礎的な調査研究については、外部委託等を活用し、積極的に実施する。

## 2. 成果の提供・普及事業

### 1. 図書

道路技術者の一層の利便に資するため、調査委員会の成果を踏まえ、適宜、適切な刊行の実施に努めるものとし、今年度は以下の図書を刊行する。

#### ① 新刊

- 「道路標識構造便覧」
- 「道路橋の設計計算例」
- 「道路土工点検必携」
- 「道路橋耐震設計便覧」
- 「道路橋補修補強設計便覧」
- 「道路橋補修補強設計便覧(耐震設計編)」
- 「道路橋非破壊調査便覧」
- 「舗装点検要領に基づく舗装マネジメントの手引(仮称)」
- 「道路の維持管理」

#### ② 改訂

- 「道路標識設置基準・同解説」
- 「道路政策の変遷(道路の長期計画)」
- 「鋼道路橋設計便覧」
- 「鋼道路橋施工便覧」
- 「鋼道路防食便覧」
- 「道路橋耐風設計便覧」
- 「疲労対策便覧」
- 「コンクリート橋設計便覧」
- 「コンクリート橋施工便覧」
- 「杭基礎設計便覧」
- 「杭基礎施工便覧」
- 「舗装調査・試験法便覧」
- 「英文アスファルト要綱」
- 「排水工便覧」
- 「道路土工指針 — 盛土工編」
- 「道路土工指針 — 擁壁工編」
- 「道路トンネル非常用施設設置基準・同解説」
- 「道路震災対策便覧(震災危機管理編)」

#### ③ 読者のニーズに合わせ、既刊図書の増刷

## 2. 月刊誌「道路」

月刊誌「道路」については、安全な社会基盤の強化や会員相互の技術向上を目的に、技術情報や、地域情報の充実、また国際情報の充実を図りながら、平成30年4月号から平成31年3月号まで毎月平均8,400部を発行する。

## 3. 講習会、講演会等の開催

調査委員会において成案を得たもの、または、現在検討中の指針、要綱、便覧について専門的な知識の普及を図るため適時に開催するとともに、会員の要望を踏まえたテーマに沿った講習会等を開催する。また、開催に当たっては広報による周知の徹底を図り、参加者の拡大に努める。

- ① 「道路関係予算に関する講習会」(東京)
- ② 「道路土工に関する地区講習会」、「道路橋に関する地区講習会」等
- ③ 「道路政策に関する講演会」(東京及び地方)の実施
- ④ そのほか、道路関係情報を適宜提供する講演会等を実施

## 4. 第33回日本道路会議の準備

平成31年度に開催する第33回日本道路会議の諸準備を、実行委員会、論文・企画委員会において行う

## 5. 道路広報

### (1) 道路への理解と普及に向けた広報啓発活動

道路に対する国民のニーズを把握するとともに、社会資本としての道路の役割、必要性等について広く国民的理解を求める広報啓発活動を、関係団体等の協力と連携を図りながら広く展開する。

### (2) 道路関係資料等の保存・活用システムの構築

道路関係資料等の保存・活用システムを構築し、必要なデータを適宜利用できる環境整備を前年度に引き続き行う。

### (3) ホームページの改善

最新の技術資料・情報等の提供を行うため、ホームページの改善を前年度に引き続き行う。

## 3. 国際協力事業

国際委員会において、PIARC、IRF、REAAAなどの国際機関への参画における官民のとりまとめ役として、また道路関連産業や道路技術の海外展開を支援する当協会の機能強化、協会会員への国際活動成果の還元を運営方針として、以下の事業を実施する。

### 1. 国際会議への派遣など

#### (1) WRA(World Road Association: 通称PIARC: 世界道路協会)

##### ① 実行委員会・総会等

平成30年4月23日から25日にかけてメキシコ・カンペチェ市で開催される実行委員会等に、当会理事・国際委員長の菊川滋ほか関係者が出席し、各国の関係者らと情報交換、意見交換を図る。

##### 【横浜総会】

平成30年10月22日から26日にかけて横浜市で開催されるPIARC総会等に、当協会会長ほか国内関係者が出席し、各国の関係者らと情報交換、意見交換を図る。本総会の実施に向けてPIARC分科会を中心とし準備を行う。

② 技術委員会

世界各国で開催される技術委員会等に日本の委員が出席し、最新の道路技術・政策に関する情報交換を行い、共同研究の推進を図る。

③ 技術委員会活動報告会の実施

日本の技術委員による活動報告会を実施し、各技術委員会の活動内容およびその進捗状況について報告を行い、その活動および成果について国内への普及を図る。

④ 技術委員会活動報告の月刊誌「道路」への継続的な掲載

日本の委員が参加している技術委員会の活動報告を、当協会が発行する月刊誌「道路」へ継続的に掲載することにより、国内におけるPIARC活動成果の共有、委員会活動の活性化を図る。

⑤ 本部事務局への技術者派遣

本部事務局の要請に基づき、技術者1名を派遣する。

(2) IRF (International Road Federation: 国際道路連盟)

① 理事会等

IRF会員である当協会を代表してIRF分科会長の渡口潔ほか関係者が、理事会ほか同連盟の主催する会議等に参加し、道路に関する情報交換等を行う。

② IRFフェロー帰国報告会の開催

平成27年度IRF奨学生の帰国報告会を開催し、IRF奨学制度の意義やIRF活動について情報交換、意見交換を行い、国内において本奨学生度の理解の促進を図る。

③ 奨学基金への協力およびIRF奨学生の推薦

関係各団体の賛助を得てIRF奨学基金に協力するとともに、我が国からIRF奨学生を推薦するために募集等手続きを行う。

(3) REAAA (Road Engineering Association of Asia and Australasia:

アジア・オーストラレーシア道路技術協会) 評議員会等

① 評議員会等

平成30年5月1日にオーストラリア・ブリスベン市で開催される第108回評議委員会および、11月6日にベトナム・ハノイ市で開催される第109回評議委員会に当協会を代表してREAAA分科会長の橋場克司ほか関係者が出席し、道路に関する情報交換および意見交換等を行う。

② 技術委員会の発足

既存の技術小委員会に代わって新たに発足する技術委員会に、我が国からも委員が参加し道路技術に関する情報交換を行い共同研究の推進を図る。

新技術委員会に合わせて国内委員会を発足し、国内での活動成果の普及などを目的とし体制の強化を図る。

2. 海外留学生研究援助

海外へ留学する道路関係実務経験者に研究援助金を支給する。

### 3. その他

#### ① 月刊誌「道路」への留学生報告の掲載

月刊誌「道路」にIRF奨学制度および海外留学生研究援助金制度の留学生報告を掲載し、国内における上記制度の理解の促進を図る。

#### ② 道路関係国際会議等への協力

国内外で開催される道路関係の国際会議等へ協力し国際交流の推進を図る。

#### ③ 二国間協定による交流促進

二国間協定(韓国、ベトナム、インド、モンゴル)に基づき、情報交換等の交流を図る。

#### ④ 日本の道路技術の海外への普及

日本の道路に関する各種資料等の作成を行い、海外に向けて日本の道路技術・政策等の広報に努める。

### 4. 国際アスファルト舗装会議

我が国の舗装技術に関する英文基礎資料の作成を行うとともに、海外の協会との協力関係の一層の進展を図る。

### 4. 表彰等その他事業

#### (1) 道路功労者表彰

道路の整備改善等に功績のあった団体および個人を「道の日」に表彰する。

#### (2) 会長奨励賞

平成29年度の本奨励賞の表彰式を総会にて行うとともに、前年度に引き続き、道路に携わる若い技術者で、新設・改築・維持修繕・及びその他の管理、ならびにこれらに係る広報等において、多大な成果をあげた者を対象に表彰する。

#### (3) 公益事業協力

「全国交通安全運動」その他道路および交通の発達を推進する事業等本協会の目的に適合する各種公益的事業に協力する。

また、地方の道路技術者の質的向上に資するため、地方において講演会、現場見学会等を開催する。

### 5. 組織の強化

本協会の基盤を強化するため、会員サービス、会員とのコミュニケーション体制等の充実を図り、幅広い分野からの会員の拡充を図ることとする。また、ホームページを通して協会業務の最新情報を提供する。